１０・２　作文メモ

要約

筆者は子供の頃「ノーの一語」という見出しの分を読んだことがある。「ノー」という言葉は時に大変言いにくい言葉だが、言いにくいからといって言うべきときに言わないと相手に思いもよらない迷惑をかけることになる。それは自分の失敗や欠点，無力さを自ら認める自己否定の言葉だからである。自分を否定するとは自分の全体をだめにしてしまうことはなく、私たちを明るくし、強くしてくれるものである。真実になって物を言う時その言葉はよく相手に通じるだけではなく、言葉の響姿もしっかりしてくるものである。

2段落

私の言い難かった経験

3段落

母の言い難かった経験

4段落

依頼の言葉や詫びの言葉は自己否定の言葉かもしれないが自分を明るくし強くしてくれるものだということがわかり頑張ってその言葉を言いたいと思った。